

8 富士宮東高等学校実施報告書

- 1 実施日時 令和5年12月22日（金）14時から15時30分まで
- 2 実施場所 富士宮市総合福祉会館 2階安藤記念ホール（富士宮市宮原7-1）

3 実施内容

(1) 講演会タイトル

「動けないし話せないけど 富士宮のために来た」

(2) 内容

脳性麻痺の起業家、畠山亮夏さんと、母の織恵さんを招き、講演会を通して聴講者の障害観を変えきっかけとする。



4 プロジェクトの概要

(1) テーマ設定

重度の脳性麻痺という障害を持ち、生活全般に介助が必要な畠山亮夏さんは、「動けないけど社長、話せないけど大学講師」というキャッチフレーズのもと、母親の織恵さんとともに一般社団法人HI-FIVEを設立し、研修などを行っている。昨年度、お二人の授業を受けた際に、やりたいことにチャレンジし、自分を諦めないお二人の生き方、活動に衝撃を受けた。

そこで、お二人の魅力をより多くの人に知っていただきたい、そしてそれぞれが「障害」について考えて欲しいという思いから、亮夏さん、織恵さんを講師として富士宮にお招きし、講演会を開催した。

(2) イベント実施までのプロセス

- 5月 ドリーム・プロジェクト2023 企画書作成、提出企画時から社会福祉法人富士宮市社会福祉協議会の方にアドバイスを頂く。
 - 6月 企画採用
 - 7月 富士宮市教育委員会社会教育課に共催依頼
それにより、会場費等を無償とすることができた。
 - 9月 チラシ作成 来場者の希望受付はGoogleフォームで行った。
静岡県立富岳館高等学校 ども地域福祉系列の生徒に協力依頼
富士宮東高校と富岳館高校のプロジェクトメンバーで合同打ち合わせ
チラシを活用した広報や看板製作を行う
 - 10月 合同打ち合わせ 広報についての話し合い、当日の役割分担を行う
 - 12月 講演会前日に会場にて最終打ち合わせ、リハーサルを行う
- 常に講演会開催にあたって関係する方々との連絡、講師の方との連絡を行った。



(3) イベント当日

当日はプロジェクトメンバーで受付や会場案内、講師案内、司会など役割分担をして活動を行った。また、富士宮東高校有志生徒にも協力してもらい、講演会に来ていただいた方々の案内をしてもらった。講演会では講師の話の他、トークディスカッションを行った。トークディスカッションでは富士宮東校生、富岳館生計4名がステージにて「自分を諦めない」というテーマで思いを話した。それぞれ自分が諦めかけていたことを語り、講師の方とコミュニケーションをとりながら話した。約240人の来場者だった。実施後は来場者の方にアンケートを行った。内容は80%が「大変満足」、20%が「満足」と好評であった。高校生スタッフの対応についても、「大変満足」、「満足」が95%と、準備が実を結んだ。



5 感想

プロジェクトメンバーに行ったアンケート結果・振り返りの会から、準備期間では「当日を想定してすべき行動をイメージすることができた」

「自分から講演会の宣伝をすることができた」

「講演会で必要な要約筆記者を発見でき、自分から行動することができた」

など講演会のためにそれぞれが自分の役割を感じ取ることができて良かったと思った。

講演会当日については

「主催側になって初めてのことが多く、困惑したけれど丁寧な対応ができた(案内係)」

「自分が1番に対応する人になるから明るい挨拶を心がけた(駐車場係)」

「対応が良かったと言っただけ嬉しかった(案内係)」

「主催側、来場者の方に緊張感があった。とても楽しかった」

等、それぞれ個人で心がけたことや主催側になったことで感じたことがあり、貴重な経験ができたという意見が多くあった。

また、富士宮東高校と富岳館高校の生徒がプロジェクトメンバーとして協力し、講演会開催のためにたくさんの新しい関わりができ、当日だけでなく準備までの期間にも上記のようなたくさんの学びや経験があり良かった。私が1番に感じたことは、講演会を開催することはとても簡単に出来ることでは無いということだ。プロジェクトメンバーをはじめ、先生方や富士宮市教育委員会、社会福祉協議会の方々にご協力を頂き実現することができたことを講演会が無事成功した時に感じた。



今回の講演会開催によって感じたことや学んだことを大切に、これからの自分につなげていきたい。